

平成26年度三重県公共事業再評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町名	再評価の理由	全体事業概要と目的	事業進捗状況			事業を巡る社会経済情勢等の動向	費用対便益分析結果・コスト縮減の可能性・代替案の検討等	今後の事業の見通し	
						採択年)	総事業費	進捗率				事業進捗内容
							工事費	進捗率				
							目標年 用地費	進捗率				
海岸事業	9	宇治山田港海岸	伊勢市		<p>【全体事業概要】 全体計画延長L=3,518m 二見工区L=758m 堤防改良 758m 突堤工 5基 養浜工 122,400m³ 今一色工区L=2,760m 堤防改良 2,760m</p>	H12	5,694	37.9%	<p>【整備済み内容】 二見工区 堤防改良 610m 突堤工 4.5基 養浜工 51,000m³ 今一色工区 堤防改良 90m</p> <p>【次年度以降の内容】 二見工区 堤防改良 148m 突堤工 0.5基 養浜工 71,400m³ 今一色工区 堤防改良 2,670m</p>	<p>平成25年は「第62回神宮式年遷宮」を契機として伊勢市二見町への観光客が大幅に増加しています。また、東日本大震災の経験から、地域住民の防災意識が高まってきており、住民が参加する大規模な避難訓練が実施されるようになってい</p> <p>ます。更に、宇治山田港海岸周辺の観光客数が著しく増大し、住民だけでなく観光客を対象とした避難誘導体制が求められるようになったことから、津波啓発看板及び津波誘導看板を伊勢市と連携し整備を行っています。</p>	<p>【費用対効果分析】 B/C = 28.7</p> <p>【コスト縮減】 突堤天端の遊歩道工は、当初計画においては景観に配慮した石張舗装として計画していましたが、比較的安価で同等の効果を持つコンクリート洗出し舗装に見直すことでコスト縮減を図っています。</p> <p>【代替案】 海岸保全施設については、線の防護方式又は面的防護方式による整備が考えられます。二見工区では、背後の社会環境(夫婦岩表参道、旅館街)等や自然環境を考慮し、既設堤防の高さを変えずに防御する、面的防護方式(堤防改良+突堤+養浜)としています。 一方、今一色工区では、堤防前面まで海苔養殖が行われ、海域を利用した防護施設の設置が困難であることから線の防護方式(堤防高上げ)としています。 以上から、当海岸において代替案は考えられず、現計画で進めることが妥当であると判断しています。</p>	<p>【今後の見通し】 厳しい財政状況ですが地元の要望も強く、平成34年度の完成を目指し引き続き事業を推進していきます。</p>
					H34	-	-	<p>【事業目的】 当地区の海岸堤防は伊勢湾台風による被災を契機に昭和36年までに築造されましたが、築後50年近くが経過していることから施設本体の老朽化が進んでおり、また近年の河川からの土砂の供給が減少していることなどから、砂浜が侵食を受け汀線は大きく後退しています。このようなことから、台風などの高波時には防護効果の低下により波が堤防を越える被害が発生するなど、背後の旅館街及び人家の安全が危惧される状況となっています。そのため本事業により「海岸侵食の進行を防止し海浜の安定を図ると共に、波浪や高潮などによる浸水を未然に防ぎ、背後地の生命・財産を守ること」を目的としています。</p>				

(添付ファイル 第8号様式)

平成26年度三重県公共事業再評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町名	再評価理由	全体事業概要と目的	事業進捗状況			事業を巡る社会経済情勢等の動向	費用対便益分析結果・コスト削減の可能性・代替案の検討等	今後の事業の見通し	
						採択年 目標年	総事業費	進捗率				事業進捗内容
							工事費	進捗率				
							用地費	進捗率				
道路事業	10	一般国道477号四日市湯の山道路	四日市市 菰野町		【全体事業概要】 延長 L=9,000m 幅員 W=22.0(36.0)m 主要構造物 東名阪アンダー工 N=1基 橋梁 N=7橋 ボックスカルバート工 N=17基	H9	50,000	63%	整備済延長 L=4,600m うち供用延長 L=4,600m 主要構造物(整備済) 東名阪アンダー N=1基 橋梁 N=4橋 ボックスカルバート工 N=5基	【関連事業(新名神高速道路)の進捗】 並走する新名神高速道路四日市北JCT～亀山西JCT間の進捗状況は、用地取得率が約95%(平成26年10月1日現在)であり、平成30年度までに三重県区間全線供用に向け、着実に整備が進められている。 【現道の状況】 現国道477号は、平成26年5月の部分供用により一部混雑が緩和したものの、依然として慢性的な渋滞が発生している状況である。 これらのことから、当事業の必要性に変化はない。	【費用対効果分析】 B/C=1.3 【コスト削減】 橋梁に耐候性鋼材の使用や草刈りに要する維持管理費を抑制するための防草対策を実施し、コスト削減に努めている。 【代替案】 当路線は、東名阪高速道路四日市ICと新名神高速道路菰野ICを直結する道路として計画されている。 また、平成25年度末時点で用地買収を概ね完了(89%(先行買収含む))しており、残る工区の工事も全線にわたり着手していることから、代替案はない。	平成30年度の全線供用に向けて事業を推進する。
							31,837	55%				
						H30	18,163	78%				
					【事業目的】 ・新名神高速道路菰野ICへのアクセス向上 ・国道477号の渋滞緩和							

注:再評価理由

- 事業採択後5年間を経過した時点で未着工の事業
- 事業採択後一定期間を経過した時点で継続中の事業
- 再評価実施後一定期間が経過している事業
- 社会経済情勢の急激な変化等により再評価を実施する必要性が生じた事業

平成26年度三重県公共事業事後評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町名	全体事業概要と目的	採択年度	完了年度		事業の効果	事業の環境面への配慮及び事業による環境の変化	事業を巡る社会経済情勢等の変化	県民の意見	今後の課題
						前回	前回					
						最終	最終					
河川事業	507	二級河川大堀川 総合流域防災事業	伊勢市	<p>【全体事業概要】 全体事業費 4,812百万円 計画延長 L=3,540m ・築堤工 L=6,000m ・掘削工 V=107,000m³ ・護岸工 L=6,000m ・橋梁工 2橋 ・水門 1基 ・樋門樋管 12基 ・用地補償 1式</p> <p>【事業目的】 大堀川沿川の浸水被害を防止するために、河道拡幅や河床掘削等の改修を行い、流下能力の確保および治水安全度の向上を図る。</p>	S56	H23	5,128	<p>(1)浸水被害の軽減 河川事業が完了した平成23年9月には、過去に浸水被害が発生した平成10年5月の洪水を超える雨量が観測されているが、家屋浸水被害は発生していません。</p> <p>(2)河川水位の低下効果 事業実施後における河川水位は、浸水被害発生時より低下しています。 H10.5 24時間連続138mm 河川水位 2.37m H23.9 24時間連続136mm 河川水位 1.90m</p>	<p>(1)自然環境への配慮 自然環境への配慮としては、河道が単調とならないようにするため、掘削後の河床にはスポット的に捨石工を施したり、河床に変化を持たせることなどにより、多様な河川環境の保全に努めました。</p> <p>(2)環境の変化 河川改修工事後5年が経過し河道内に植生がみられ河床に変化を持った河道となっています。今後、年月が経過すれば河川環境もさらに多様性が増してくると考えられます。</p>	<p>(1) 関連する周辺事業の進捗 大堀川の改修事業完了と合わせ、支川の東新堀川の改修がH23年度に完了し、大堀川流域の治水安全度が向上しました。</p> <p>(2)人口等の変化 前回(H20)再評価時と比較して、大堀川流域における、伊勢市(柏町)、明和町(赤坂地区)、齋宮地区、明星地区)の人口、世帯数ともに増加しています。 <人口> 平成6年:5,936人 平成20年:6,176人 平成25年:6,251人 <世帯数> 平成6年:1,679世帯 平成20年:2,049世帯 平成25年:2,249世帯</p>	<p>(1)アンケートの目的 アンケートは河川改修を実施したことによる安心感などを調査し、事業効果の確認や事業に関する課題を把握し、今後の同種事業に反映することを目的に実施しました。 調査数:247世帯 有効回答数:191世帯 回収率:77%</p> <p>(2)アンケート結果の分析 ・75%の方が、大堀川のはん濫の危険を感じ、そのうち41%の方は、「昔は感じたが今は感じない」と回答していることから、河川改修による住民の安心感が向上していることが伺えます。</p> <p>・工事に関する満足度は67%の方は「満足」「どちらかといえば満足」と感じ、その理由としては大雨時の浸水がなくなったことへの意見が多く、一方、21%の方は「不満」「どちらかといえば不満」と感じ、その理由として、草刈りの要望や事業の長期間に対する意見が多かったことが挙げられます。</p>	<p>(1)河川美化活動の啓発 アンケート調査結果より、80%程度の方が河川の美化活動に興味があることが伺えることから、今後、さらに多くの地域住民の方に参画していただけるような働きかけが必要である。</p> <p>(2)地域住民への充分阿事業説明が必要 長期間にわたる事業では、工事説明会や工事見学会を行うなど、地域住民へ積極的に情報提供を行い、事業の進捗状況等を周知する必要があります。</p> <p>(3)事業効果の説明 事業完了後も約1/3の方が、河川の氾濫について「常に不安を感じる」と回答していることから、不安と感じる内容を把握するとともに、安心して生活していただけるよう、きちんと事業効果を説明する必要があると考えています。</p>
						H22	4,812	<p>(3)水防団待機水位を超過した回数が減少 大堀川新橋観測所における水防団待機水位を超過した回数について、事業完了前に比べて事業完了後は減少傾向にある。</p> <p>(4)大堀川防潮水門の整備効果 水門の整備により高潮発生時の浸水被害を軽減できます。</p>				

平成26年度三重県公共事業事後評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町名	全体事業概要と目的	採択年度	完了年度		事業の総事業費	事業の効果	事業の環境面への配慮及び事業による環境の変化	事業を巡る社会経済情勢等の変化	県民の意見	今後の課題
						当初	当初						
						最終	最終						
砂防事業	508	丈六谷川	菟野町	<p>【全体事業概要】 全体事業費:630百万円 ・堰堤工:3基 ・既設床固工修復工:3基</p> <p>【事業目的】 土石流による災害から人家や道路等を保全することを目的として、砂防事業を実施した。</p>	H12	H16	500	<p>事業完了後、土石流による人家や道路等への被害はなく、保全している。</p> <p>費用対効果 B / C = 1.33 > 1.0</p> <p>その他の効果 ・山林森林保全効果 ・交通途絶による機会損失の防止(県道朝明溪谷線) ・波及的效果</p>	<p>・工事箇所の希少種の移植を行うことで植生環境への影響を抑えた。</p>	<p>・朝明川上流域には朝明溪谷、朝明キャンプ場があり、日帰りも宿泊も可能な人気のレジャー施設となっている。近年のアウトドア志向の高まりにより、鈴鹿国定公園に位置し豊かな自然を持つこの地域の人気、価値はますます高まっている。</p>	<p>□7%が丈六谷川が土石流危険渓流であることを知らなかった。 □80%が砂防堰堤の工事により安心感が向上したと評価している。 ・安心感が向上したとは思えない理由として、「工事の効果が分かりにくい」という意見が多かった。 ・67%が砂防事業の今後にのあり方について、ハード対策とソフト対策を並行して進めるべきであると考えている。</p>	<p>・危険箇所や避難場所がわからないという意見あることから、町の防災対策部局と連携しながら、住民自らが危険箇所の把握や避難態勢の準備など日頃から取り組めるように支援していくことも重要である ・事業の効果が分かりづらいという意見が多いことから、事業効果の説明方法について工夫をしていく必要がある。</p>	
						H21	630						

平成26年度三重県公共事業事後評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町名	全体事業概要と目的	採択年度	完了年度		事業の効果	事業の環境面への配慮及び事業による環境の変化	事業を巡る社会経済情勢等の変化	県民の意見	今後の課題
						当初	当初					
						最終	最終					
砂防事業	509	中野谷川	紀宝町	<p>【全体事業概要】 全体事業費:950百万円 ・堰堤工:1基 ・垂直壁:3基 ・溪流保全工:165m</p> <p>【事業目的】 土石流による災害から人家や道路等を保全することを目的として、砂防事業を実施した。</p>	H12	H16	750	<p>事業完了後、土石流による人家や道路等への被害はなく、保全している。</p> <p>費用対効果 B / C = 1.17 > 1.0</p> <p>その他の効果 ・山林森林保全効果 ・交通途絶による迂回損失の防止(県道小船紀宝線) ・波及的效果</p>	<p>・生態系等の環境への影響を抑えるために溪流保全工で植生が繁茂しやすいブロックを採用した。</p>	<p>・高齢化が進み、避難困難者が増加する。 ・近年日本各地で発生している土砂災害と降雨量の関係を見ると、一年に発生する土砂災害発生件数と1時間当たりの降雨量が50mmを超える回数が増加傾向にあり、土石流・立木災害が発生する危険性が高くなっている。</p>	<p>45%が中野谷川が土石流危険溪流であることを知っていた。 33%が砂防堰堤の工事により安心感が向上したと評価している。 ・安心感が向上したとは思えない理由として、「工事の効果が分かりにくい」という意見が多かった。 ・66%が砂防事業の今後のあり方について、ハード対策とソフト対策を並行して進めるべきであると考えている。</p>	<p>・事業の効果が分かりづらいという意見が多いことから、事業効果の説明方法について工夫をしていく必要がある。 ・危険箇所や避難場所がわからないという意見があることから、町の防災対策部局と連携しながら、住民自らが危険箇所の把握や避難態勢の準備など日頃から取り組めるように支援していくことも重要である</p>
						H22	950					

平成26年度三重県公共事業事後評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町名	全体事業概要と目的	採択年度	完了年度		事業の効果	事業の環境面への配慮及び事業による環境の変化	事業を巡る社会経済情勢等の変化	県民の意見	今後の課題
						総事業費	前回					
							最終					
海岸事業	510	五ヶ所港海岸	南伊勢町	<p>【全体事業概要】</p> <p>護岸工 320m 突堤工 245m 潜堤工 163m 人工海浜 42,020m³ 遊歩道 5,000m² 植栽 1,660m² 便所、更衣室・シャワー 1式</p>	H20	1,474		<p>・海浜公園として整備されたことから、背後地から海岸へのアクセス性が向上しました。</p> <p>・海水浴場がなかった南伊勢町内に海水浴を楽しむことができる人工海浜が創出され、海水浴シーズンには約700人の方が海水浴に訪れるようになり、海浜公園には年間5000人の利用者が訪れるようになりました。</p>	<p>・養浜材料は、背後地の飛砂の防止や海岸環境への影響に配慮して、もともと存在した浜の構成材料と同様の粒径の養浜材料を用いました。</p> <p>・人工海浜(突堤・潜堤・養浜)の整備により、漂流ゴミが漂着しやすくなったため、地元と協力して対応しています。</p>	<p>・東日本大震災の経験から、住民や海浜公園利用者の安全を守るため、避難場所や避難路を示す看板等が整備されています。</p> <p>・海浜公園の整備により、海岸に広いスペースが創出され、盆踊りなどの地域行事が行われるようになりました。</p>	<p>全体の満足度としては84%の方が「満足」、「どちらかと言えば満足」と回答しています。そのうち34%が「災害に対する安心感が高まった」、20%が「海辺が利用しやすくなった」と回答しており、人工海浜の整備は一定の評価を得ているものといえます。一方、16%の方が「不満」、「どちらかという不満」と回答しており、そのうち35%(全体の5%)が「計画に住民の意見が反映されていない」と回答していることから、住民とのさらに踏み込んだ合意形成が課題として残されていると考えられます。</p>	<p>・今回の事業では費用便益比からみて、当初の計画を下回ってはいませんが、県内からだけでなく(県外からも海浜公園として利用されており、事業効果が一定程度発揮されていると考えられますが、今後同一の事業を実施する場合は、利用者予測をより詳細に精査したうえで、事業効果を把握します。</p> <p>また、海岸環境整備事業の効果を今後も発揮し続けられるように、今回実施したアンケート調査結果等を参考にしつつ、さらなる利用促進を図っていきたいと考えています。</p>
				H22 (H21繰)								